

2024年9月9日

国際病理アカデミー(IAP)日本支部  
会員 各位

国際病理アカデミー(IAP)日本支部 会長 小田義直  
2024年理事指名委員会 委員長 吉野 正、副委員長 加藤良平  
委員 清川貴子、都築豊徳、原田憲一、南口早智子、長村義之、松原 修

## 2024年 IAP 日本支部理事選挙 投票のお願い

清秋の候、先生におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度 国際病理アカデミー日本支部会則第5章、役員、第7条から第9条により、任期を満了されます理事2名（湊 宏先生、柳井 広之先生）の後任についての理事選挙を行います。任期は2025年-2027年です。2024年 IAP 日本支部理事指名委員会において、国内外での IAP での活動および貢献、男女共同参画、専門領域、地域性などを慎重に審議し、本年度は次の4名を理事指名候補者と決定しました。なお、候補者のプロフィールについては、指名委員会の責任によるものであります。また、候補者の掲載順は五十音順です。

下記の要領に従い、HP 理事選挙ページにてご投票をお願いします。HP 理事選挙ページ上での電子投票になります。

### ・2024年度理事指名委員会の選考方針について 理事指名委員会 委員長 吉野 正

JDIAP の主な役割は、診断病理に関わる教育的な機会を用意することと、各国 IAP 支部と密に連携して国際化に寄与することにあります。理事は、各種委員会を統括し種々の事業を行ってきたところですが、現況としては、女性の方が圧倒的少数になっています。男女共同参画は、世界の流れであり、診断病理で重要な役割を担っている女性会員の意見を率直に吸い上げる機能にかけているのではないかという議論がございました。本年の新理事選考にあたって、以下のような姿勢で臨むこととしました。2名の新理事のうち女性を最低1名は必ず入れるということにいたします。具体的な方策としては、理事候補を投票でお選びいただくのですが、最低1名はその投票数に関わらず女性を選ぶ、ということです。この方式は、日本病理学会でも採用されているもので、JDIAP も世界標準により近づけるという姿勢で、ご理解いただきたく存じます。

### ・国際病理アカデミー日本支部(JDIAP)の理事選挙への積極的な投票をお願いいたします JDIAP 会長 小田義直

詳細は、こちらをご参照ください (News Bulletin 2024 No.3 p12-13) : <https://iapjapan.org/news/pdf/24-3NewsBulletin.pdf>

## 記

投票期間： 10月1日(火) 12:00 から 10月15日(火) 17:00まで

1. HP上の選挙公報をご覧になり、投票をお願いします。
2. 理事選挙ページへログイン後、投票してください。理事指名候補者4名の中から2名まで投票することができます。投票後は確認メールが送信されます。Eメールアドレスが未登録の会員は登録情報を早急に更新してください。
3. 理事選挙ページへのログイン情報が分からない会員は事務局へご連絡ください。(マイページへのログイン情報と同じです。)

以上

大橋 瑠子

OHASHI RIUKO



新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子・診断病理学分野 教授  
新潟大学医歯学総合病院 病理部 部長・病理診断科長  
新潟大学医学部研究推進センター 病理組織標本部門 部門長  
浜松医科大学 2001年卒 東北地区  
専門領域 泌尿器・呼吸器分野

診断病理医としての国際的貢献(JDIAPを含む)

2020 ECP/IAP (Glasgow/オンライン) 発表

2020 - 2022 WHO 分類第5版執筆委員 (腎腫瘍)

2022~ ICCR Kidney dataset authoring committee

理事選挙へ向けての抱負

IAP 日本支部は、60年以上の長きに渡り教育セミナーや国際交流活動などを通じて日本の病理学の発展及び病理診断の質の向上に重要な役割を果たしてきた歴史ある学会です。これまで諸先輩方の多大なる努力により培って来られた伝統と精神を受け継ぎ、次世代に向け更なる充実と発展を目指します。IAP 日本支部の企画を通じて、病理医として多くの先生方と共に楽しみながら成長、勉強していけるよう、精一杯尽力して参ります。

加留部 謙之輔

KARUBE KENOSUKE



名古屋大学大学院医学系研究科 臓器病態診断学 教授  
名古屋大学医学部附属病院 病理部 部長  
九州大学 2000年卒 中部地区  
専門領域 造血器分野

診断病理医としての国際的貢献(JDIAPを含む)

2006 IAP 日本支部 病理診断学術奨励賞受賞

2024 第64回病理診断学教育セミナー 病理診断講習会 講師

2024 第35回 IAP Congress Cancun, Mexico 座長および演者

理事選挙へ向けての抱負

本邦の病理医が病理診断学分野の世界標準についていくためにも、本邦からの知見を世界に発信するためにも、積極的に国際交流を進めていく必要を感じます。そのために当方でできることは行なっております。

孝橋 賢一

KENICHI KOHASHI



大阪公立大学大学院医学研究科 診断病理・病理病態学 教授

滋賀医科大学 2001年卒 近畿地区

専門領域 小児・骨軟部分野

診断病理医としての国際的貢献(JDIAPを含む)

2011 IAP 日本支部 病理診断学術奨励賞受賞

分担執筆：WHO classification of tumours 5th edition. Soft tissue and bone tumours.

WHO classification of tumours 5th edition. Paediatric tumours.

WHO classification of tumours 5th edition. Endocrine and Neuroendocrine tumours.

WHO classification of tumours 5th edition. Head and Neck tumours.

USCAP 参加：2013 Baltimore, 2015 Boston, 2016 Seattle, 2017 San Antonio, 2018

Vancouver, 2019 National Harbor

International Skeletal Society Closed meeting 参加：2015 Hawaii, 2017 New York, 2018

Berlin, 2019 Vancouver

理事選挙へ向けての抱負

この度 IAP 日本支部理事選挙に立候補させていただきました。最大の使命として 2026 年に開催される IAP 福岡大会を成功させるべく努力いたします。また、スライドセミナーをはじめ、会員の皆様に質の高い情報を提供し、有意義になる環境づくりを目指し、IAP の活動をさらに飛躍させるべく取り組んでまいりたいと思っております。

長峯 理子

MICHIKO NAGAMINE



国立がん研究センター東病院 病理・臨床検査科 医長

筑波大学 2001年卒 関東地区

専門領域 婦人科病理・血液病理・細胞診

診断病理医としての国際的貢献(JDIAPを含む)

2008 CAP Annual Meeting ポスター発表

2009 米国病理専門医取得 (AP/CP/Cytopathology)

2016 The 19th International Congress of Cytology 口頭発表

2020 USCAP 109th Annual Meeting ポスター発表

2024 USCAP 113th Annual Meeting 口頭発表

2024 第 8 回 IAP 日台合同スライドカンファレンス discussant

理事選挙へ向けての抱負

卒後 20 年余り、診断病理医として日米様々な地域で勤務して参りました。この度 IAP 理事への立候補という機会を頂いたことも含め、今の自分があるのはそれぞれの地域・病院でお世話になった数多の先生方の御指導、導きの賜物と思っております。日本の病理学の発展のために微力ながら精一杯力を注ぐことで、諸先生方へのせめてもの御礼とさせていただきたく、精進を続ける所存です。